



皇 學 館

学園報 第45号

発行・編集／学校法人皇學館 企画部
TEL:0596-22-6496・8600

●大学 大学院・専攻科・文学部・教育学部・現代日本社会学部
〒516-8555 三重県伊勢市神田久志本町1704
TEL:0596-22-0201(代表) FAX:0596-27-1704

●高等学校・中学校 三重県伊勢市楠部町138
[高校]〒516-8577 TEL:0596-22-0205(代表)
[中学]〒516-8588 TEL:0596-23-1398(代表)

注目記事

1 面
彬子女王殿下による
特別講義を開催

2 面
お白石持行事に約 800 名が
参加

3 面
学会で活発な学术交流

4・5 面
学生による地域貢献活動報告

6 面
保護者対象進路説明会開催、
教育実習ほか

7 面
蓐の会より横断幕贈呈

8 面
館友教員懇談会を開催

連載

2 面
皇學館人物列伝②
佐中 壯

4 面
研究室探訪 vol.16
叶ゼミ (教育学部教育学科)



笑顔でご講義される彬子女王殿下。学生の質問にも丁寧にご回答いただく

七月十一日、彬子女王殿下による特別講義「日本の神社ができることー心游舎の試みー」が開催された。彬子女王殿下のご台臨を仰ぐのは昨年四月に続いて二回目。清水潔学長の「本学の学生にふさわしいご講演をご用意いただき、感謝の念に堪えません」という挨拶の後、六号館・六二一教室に集まった約二百五十名の学生・教職員からの盛大な拍手に迎えられ、特別講義は始まった。

七月十一日、彬子女王殿下による特別講義「日本の神社ができることー心游舎の試みー」が開催された。彬子女王殿下のご台臨を仰ぐのは昨年四月に続いて二回目。清水潔学長の「本学の学生にふさわしいご講演をご用意いただき、感謝の念に堪えません」という挨拶の後、六号館・六二一教室に集まった約二百五十名の学生・教職員からの盛大な拍手に迎えられ、特別講義は始まった。

彬子女王殿下による特別講義を開催

「日本の神社ができることー心游舎の試みー」

七月十一日、彬子女王殿下による特別講義「日本の神社ができることー心游舎の試みー」が開催された。彬子女王殿下のご台臨を仰ぐのは昨年四月に続いて二回目。清水潔学長の「本学の学生にふさわしいご講演をご用意いただき、感謝の念に堪えません」という挨拶の後、六号館・六二一教室に集まった約二百五十名の学生・教職員からの盛大な拍手に迎えられ、特別講義は始まった。

術に興味を持たれた。その後、大英博物館でボランティア活動をされる中で、日本の文化財を後世に残すためには多くの人が力を合わせることが大切だと痛感され、帰国後に伝統文化の保護を目的とした一般社団法人「心游舎」を創設された。「心游舎」が後世に残したいものとは、ショーケースに展示されるような作品だけではなく、古くから行われてきた手仕事や芸能、行事などを私たちの日常生活に取り入れ、子どもたちに体験の場を用意すること。それが心游舎の目的です。

ご講義では京都の石清水八幡宮で彬子女王殿下が子どもと一緒に「御花神饌」を作ったり、福岡の神社参拝は日本文化を守る第一歩

質疑応答では神道学科三年の井階正浩君が「英

国から見た日本の印象を教えてください」と質問。太宰府天満宮で和菓子作りで携わる姿が映像で紹介された。彬子女王殿下は「このように、子どもが楽しんで本物の日本文化を体験することで、いつかその素晴らしさを思い出してくれる日がくる」と信じています。つまり、私たちの活動は、子どもの心に日本文化という記憶の「種」を蒔くことで、と述べられた。

次に彬子女王殿下とご親交が深く、以前に本学でも講演された江戸絵画のコレクター、エッ

コ・プライスさんが登壇。今年の春から夏にかけて東北三県で開催されている震災復興支援特別展に触れ、美術作品の持つ力について語っていただいた。



学生が県政・市政と一緒に考える機会となったトップ対談

対談が本学で行われ、現代日本社会や大学の学生や大学関係者のほか、一般聴講者、県及び伊勢市関係者も含め、約八十名が聴講した。

対談では災害に備えた都市基盤づくりや観光、医療、教育に関連する政策について意見交換がなされたほか、鈴木市長が伊勢南北幹線道路や九月に開通する予定の第二伊勢道路に案内標識を設置する要望案などを県に提示。鈴木知事は「関係の各機関と調整しながら検討したい」と答えた。

最後に、知事と市長それぞれから学生へメッセージをいただいた。鈴木市長は「現場で今起こっていることを五感を使って感じる事が大事」、鈴木知事は「自分に線引きをしたり、枠にとらわれてはいけない。いろんなことに挑戦して、海外にもどんどん行ってほしい。知ったかぶりや、やったふりが一番ダメ」と熱く語り、学生を激励した。

県知事と伊勢市長が対談

英敬三重県知事と鈴木健一伊勢市長との「1対1対談」が本学で行われ、現代日本社会や大学の学生や大学関係者のほか、一般聴講者、県及び伊勢市関係者も含め、約八十名が聴講した。

とても大切だと感じました」とお答えになった。最後に彬子女王殿下は「日本の文化を守ることは難しいことではありません。私たちが何かの折に家族や友人と神社へ行く文化を伝えていくことが

こうと思うこと。それが、日本文化を守る第一歩になるのです」と締めくくられ、約九十分の特別講義は終了した。

終了後、国史学科四年の東端麻由子さんは「素晴らしいご講義でした。将来、私に子どもができれば、普段の生活の中で日本文化のあたたかさを伝えられる母親になりたい」と感想を語った。

所功先生、夏川りみさんをお迎えして 高校創立五十周年・中学校創立三十五周年 記念行事を 9月14日に開催



所 功先生

夏川りみさん

本校では、保護者会・後援会・同窓会などのご支援のもと、高校・中学校の創立周年記念に向けて、施設の整備・拡充を進めてきました。本年度は、これらの取り組みのまとめとして、9月14日(土)に周年記念行事を開催します。記念式典の中では、周年を記念して制作された「応援歌」の発表が吹奏楽部の演奏により行われます。当日は、ご来賓や同窓生を招いて、教職員・生徒と一緒に学園の周年を祝うとともに、今後のさらなる発展を祈念する盛大な式典となるよう準備を進めています。

また、アトラクションとして、歌手・夏川りみさんの公演、そして、本学特別招聘教授・京都産業大学名誉教授の所功先生に記念講演を行っていただきます。

■記念行事要項

◇内容

会場 大学 総合体育館
・記念祭典 9時10分～9時40分
・記念式典 10時～11時30分
吹奏楽部による応援歌の完成披露など

会場 大学 2号館 231教室

・記念講演 14時～15時
講師・所 功先生

会場 大学 記念講堂

・アトラクション(2回公演)
①13時30分～14時30分
②16時～17時
出演・夏川りみさん

会場 大学 倉陵会館

・祝賀会 17時30分～19時30分



夏の夜空といえば「夏の大三角」か「はくちょう座」が思い浮かぶ。あるいは八月下旬のペルセウス座流星群も例年のイベントだ▼日本人も船の航行や農業に星を活用してきた。中でも北斗七星と昴は有名だ▼北斗七星はおおぐま座を構成するがそのα・βの二星を結んだ線分を五倍すると北極星にたどり着く。北の方角を割り出すための方法だ。この二つを江戸時代には「番の星」といった。宮沢賢治も「星めぐりのうた」で「大ぐまの足を北に五つのはしたところ」と歌っている▼昴は平安時代の辞書や『枕草子』にも載る。各地の方言では「六連星」とか「九曜の星」、または「ごちやごちや星」の名をもつ。星が集まって見えるためにこのように名づけられたのだらう▼記号も今では☆だが伝統的には○を「星と呼んだ。大相撲の取組み結果などにその名残がある。○は白星で勝ち、●は黒星で負けだ▼本学園でも大学の校歌に「倉田の山に仰ぎ見る空に燦たる幾星斗」や精華寮歌の「のこの星の影うすれ」など星が歌われている▼夜空を見上げて学生生徒諸君ひとりひとりが、輝く星となることを願う。

皇學館奉獻団約800名が 内宮のお白石持行事に参加



「エンヤー」の掛け声に合わせて奉曳車がゆっくり進む



階段の上が正殿。厳肅な空気に包まれ、気を引き締める参加者たち

室町時代から続く伝統の行事

神宮の御敷地には半透明・乳白色の石英質の「お白石」が敷かれている。これは遷宮の年に旧神領（伊勢）民によって運び

置かれることが慣わしとなっている。この行事は「お白石持行事」と呼ばれ、神職ではない一般の人々が神宮のご正殿を間

本年七月二十六日、第六十二回式年遷宮の諸行事の一つである内宮のお白石持行事が始まり、この日のために数年前から一つひとつ地元の旧神領民が手で拾い、大切に保管してきたお白石が御敷地へと奉納された。そして内宮のお白石持行事の最終日に当たる八月十二日、本学の学生・保護者・教職員約八百名で結成された皇學館大学奉獻団が特別神領民として二番車の奉獻に参加した。

奉獻に先立ち、十一日には浜参宮を行い、二見浦の二見興玉神社に参拝し、無垢塩草の大麻で心身の祓いを受けた。翌朝、揃いの白装束と法被、白い鉢巻をまとった奉獻団が宇治公民館前

本年秋の遷御を控え、数多くの祭が執り行われる伊勢の神宮。その中で、一般の人々が参加できる行事が二つある。一つは御用材を両宮に曳き入れる「御木曳行事」。もう一つが、御敷地にお白石を運び入れる「お白石持行事」。特にお白石持行事は神域深く立ち入ることが許される唯一の行事として知られ、全国から二十三名の参加者を集める。このお白石持行事に、本学からも「皇學館大学奉獻団」が参加した。



手渡された1人1つずつのお白石を白い布にくるみ、ご正殿まで大切に運ぶ

とを許され、誇らしき仲間」と語り、全員の士気を鼓舞した。続いて本学奉獻団を含む約二百五十名がおはらい町通りに整列し、この日のために練習を重ねてきた皇學館

へ。遥拝をして南御門から御垣内へと歩を進め、白木の香りも芳しいご正殿の間近に全員が神妙な面持ちでお白石を奉獻した。その後、おもてなし広場で解団式が行われた。清水潔学長は「神宮は、御遷宮によって悠久の歴史を今日まで受け継いできた。二十年後の御遷宮は、諸君の双肩に掛かっている」と挨拶した。そして自身も皇學館高校卒業生という、伊勢市観光協会的美濃松謙さんの音

頭に從つて全員が君が代斉唱と万歳三唱を行い、二十年に一度の熱い二日間が幕を閉じた。行事に参加した国史学科三年の赤井駿平君と寺田貴彦君は「入学時の御垣内参拝でご正殿を見たことができて感動した」「白木の柱、五色の据玉

など、間近で見えた新しいご正殿は驚くほど美しかった」と口々に感動を語った。国文学科三年の大西那奈さんと稲葉梨紗さんは「御敷地に入る前はみんな普通に会話をしていたのに、南御門を入った瞬間には



解団式で挨拶の言葉を述べる清水潔学長

に集合。午前九時に始まった結団式では奥野勇・特別神領民実行委員長が挨拶に立ち「今回、神領民十五万七千名、全国の特別神領民七万三千名、合計二十三万名がお白石持行事に参加する。中でも皆さんは最後に内宮の御敷地に立ち入るこ

奉曳会の木遣りを合図に、「エンヤー」の掛け声とともに全員で奉曳車を宇治橋までゆっくりと曳き歩いた。宇治橋を渡ると一人一つずつのお白石を手渡され、全員がお祓いを受けた後、玉砂利を踏みしめながらいよいよご正宮



赤井駿平君（左）と寺田貴彦君



大西那奈さん（左）と稲葉梨紗さん

今回でお白石持行事への参加が三回目という七十八歳の男性は、本学から多くの学生が参加する様子を見て、「今回の特別神領民の平均年齢は六

十五歳と聞いた。百年も千年も続く国の大切な行事に、こうして若い人が参加することはとてもありがたい。新しいご正殿を見て感じた気持ち大切に、これからの日本を支えてほしい」と語った。

内宮の次は外宮領のお白石持行事。こうして、いよいよ秋の遷御へ向け秒読みが始まる。

皇學館 | 人物列伝 | 20

佐中 壯 (さなか そう)

明治36年鳥取県生。父は郷土の偉人・佐中廉。昭和33年東京帝国大学卒業。旧制山口・広島・松山高等学校教授を歴任。敗戦後、農に従事。昭和23年運輸教官として教壇復帰。昭和37年大阪府立大学教授。昭和42年から昭和49年まで皇學館大学教授を務め、漢文学演習、東洋思想史などを担当。1903～1992。



東洋的思考の価値を説く

硫化水銀（ HgS ）は丹砂と呼ばれる鉱物である。これを中国では「丹」として不老長寿の妙薬としてきた。このことについて佐中壯は化学的につぎのように説明する。硫化水銀（ HgS ）を空气中で熱すると酸素と結びついて水銀（ Hg ）と二酸化硫黄（ SO_2 ）になる。さらに、水銀を熱すると酸化水銀（ HgO ）となる。このとき、硫化水銀（ HgS ）と酸化水銀（ HgO ）は同じ朱色なので、見た目は丹砂を焼けば水銀になり、水銀を

焼けば丹砂に戻るように見える。このため、「丹」が永遠性をもつように誤解されてきたのだという。これが、丹薬となるが、水銀中毒を引き起こすことになるので多くの犠牲者が出た。西洋的思考からすれば、化学変化を説明せず、有毒物質を服用するなど意味を持たない。しかし、佐中はこの丹薬開発の根幹にある人の生き方や在り方についての東洋的思考こそが重要であると説く。西洋的思考は科学技

術の上で優位に立つが、それが人間生活のあらゆる面で優位だという錯覚をもたらしている。そこに、現代日本の悲劇の重大な一因が潜んでいるという。たしかに、この指摘のように、かつての公害問題や今日の環境問題の解決には、人間の生き方を考える東洋的思考に立たねばならないであろう。佐中は息子がハゼ（樫）にまけた「かぶれた」を意味する中国・四国地方の方言）ときに川蟹（サワガニのことと思われる）をつぶして塗ったところ、治癒したという経

験から、「淮南子」の「蟹の漆を敗り」（賢真訓）という記事を「真知識」としている。さらに、佐中はここから発展させて、漆と蟹の関係について、実験によって「淮南子」の記事を確認しようとした。だが、川蟹の入手が困難になり科学的な考察はなされなかつたらしい。後日、そのことを知った宗林正人教授から実験用にと大量の川蟹を送られたと伝えられる。著書に『戦国・宋初間の信仰と技術の関係』（皇學館大学出版部）などがある。（国文学科教授 齋藤 平）

学会で活発な学術交流

六月から七月にかけて本学を会場にさまざまな学会が開かれ、日頃の研究成果を発表した。それぞれの学会には他大学からの研究者が大勢参加。活発な学術交流が繰り広げられ、知識や人脈の広がる有意義な機会となった。

遷宮の制度や祭祀を考察

◆第五十九回神道史学会大会

清水潔本学学長が代表を務める神道史学会の第五十九回大会が神宮式年遷宮を記念して六月一日・二日の両日、本学で開催され、約百名が参加した。同会は本学に事務局を置き、神道史学の発展に努めている全国的な学術団体だ。



伝統の継承や古代技術の復元などについて語る采野氏

初日の一日は調査見学会があり、神宮文庫で『延暦儀式帳』などの貴重書を拝観。内宮に参拝した後、神宮宮域林の視察も行われた。

二日にわたる大会は遷宮の年にふさわしく、学術的成果の大きいものとなった。なお、当日行われた研究者発表は以下の通り。

翌二日は、研究発表と記念講演が実施された。七名の研究者による研究発表では、遷宮の制度や祭祀の創始について考察した國學院大學教授の岡田莊司氏による「古代神宮式年遷宮制の検討」が注目を集めた。続く記念講演では神宮式年造宮

①古代陰陽寮官人の補任傾向とその特質②奈良大学大学院生・宮崎真由氏、③伊勢神宮欄宜の奉勅官符補任について④國

鎮守の森を学際的に研究

◆NPO法人社叢学会大会

六月一日・二日の両日、社叢学会大会が本学を主会場に開催され、見学会・総会・研究発表会・シンポジウムに全国各地から一三八名の会員が集った。本会は社叢（鎮守の森）の学際的研究を進めるため、地域に密着した新しい学問の創造と社叢の保存・開発をめざして平成十四年に設立されたNPO法人である。理事長は上田正昭氏（京都大学名誉教授、副理事長は藺田稔氏（元本学教授・秩父神社宮司）、理事は櫻井治男本学神道

たる社叢インストラクター認定証の授与などがなされた。研究発表は「歌枕と津波石」（片岡智子ノートルダム清心女子大学名誉教授、「日・韓の『老樹』の治療事例と滋賀県の保全治療について」（李春子氏・北村正隆氏・宮嶋正通氏、「鎮守の森と地域再生・活性化―鎮守の森・自然エネルギー―」（廣井良典千葉大学教授）があり、いずれも神

神宮の式年遷宮を間近に控えた本年度大会は、初日に外宮参拝・せんぐう館拝観・神宮林の見学会に充てられた。二日目は、総会で清水潔学長より歓迎の挨拶が述べられ、また社叢の保護・管理にあ

各分野からさまざまな情報発信や提言がなされた



各分野からさまざまな情報発信や提言がなされた

道を多角的に捉える視点が含まれていた。

シンポジウムは「伊勢神宮と神宮林―式年遷宮の意味と意義―」をテーマに、木村政生氏（元神宮司庁宮林部長）による基調講演の後、藺田稔氏をコーディネーターに野崎

御遷宮への理解を深める

◆第六回人文學會大会

芳郎氏（神宮司庁）、音羽悟氏（神宮司庁）、林進氏（岐阜大学名誉教授）を交えて活発な意見交換がなされた。出席者からは社殿造営の様子、御装束神宝調製とそれに携わる人々の紹介などともに、遷宮が有する文化的意味のみならず、新たな文明論として捉える必要性のあることなどが指摘された。



総会・昼食の後、午後一時から五時までシンポジウム「伊勢の式年遷宮を考える」が開かれた。まず岡田登教授が神宮式年遷宮について全般にわたり解説。さらに、勝山清次氏（京都大学名誉教授）、茂木貞純氏（國學院大學教授、式年遷宮について活発な議論が交わされ、白熱した会場

式年遷宮について活発な議論が交わされ、白熱した会場

七月七日、四三一教室を会場に第六回人文學會大会が開催され、本学学生や教職員、学外者など九十七名が参加した。

当日は深津睦夫会長（文学部長）の開会の辞に始まり、午前中は渡辺寛名誉教授による「遷宮―歴代遷宮から神宮式年遷宮へ―」のほか、杉村敬子さん（本学大学院生）、大友裕二君（同）、岡本和真君（同）、田中教子さん（同志社女子大研究生）、以上五名の研究発表が行われた。

閉会後は午後五時半より七時まで倉陵会館二階にて懇親会が催され、三十一名が参加し親睦を深めた。

震災における神道の役割語る

◆神道学科・神道学会共催講演会

六月十三日、本学神道学は科二期生で福島県南相馬市・男山八幡神社宮司の西道典氏を講師に「神道は何ができるか―東日本震災復興―」と題して講演会を開催した。西氏は「南相馬こどものつばさ」プロジェクトを立ち上げ、子どもたちを放射能被害のない安全な所へ野外活動に送り出す運動を主宰している。

西氏は、地震発生時、津波発生時の状況を映像で解説。さらに、地域コミュニティの中核である神社を拠点に、苦難に負けず頑張っている人々の様子、神道青年会などの若手神社関係者による「鎮守の森」を元の姿に震災復興における神社の役割を熱く語る西氏



震災復興における神社の役割を熱く語る西氏

七十六名が『潮騒』の舞台・神島へ

◆国文学会・文学散歩

国文学会では毎年文学散歩を実施している。今年度は「その火を飛び越して来い！潮騒の島を訪ねて」と題して、三島由紀夫の小説『潮騒』の舞台である神島を訪ねた。参加したのは学生六十

四名、教職員十二名の計七十六名。実施日である六月三十日は日頃の行いが良かったからか（？）見事なまでの快晴になった。船中で数名が船酔いに襲われるというハプニングはあったものの、無事に神島の港に到着。そ



小説に登場する建物や場所を実際に歩く参加者たち

の後、約三キロの行程を歩いた。三キロとはいえほとんどが山道で、八代神社・神島灯台を巡り、本企画のメインとなる監的哨にたどり着いた時はフラフラな状態に。監的哨では教員と学生による「潮騒」の再現劇が上演された。

「百聞は一見に如かず」

◆史學會・歴史散歩

六月二十三日、「安土城とその周辺を探る」と題し、上野秀治・岡田登・岡野友彦教授と学生三十三名で今年度の歴史散歩を行った。

最初に訪れたのは、近江風土記の丘（滋賀県立安土城考古博物館・安土城天主信長の館）である。安土城考古博物館では問題に解答すると縄文時代貝塚から出土した貝殻を戴き、古代の人々が着たとされる麻の衣類を着る体験ができた。信長の館では安土城の天守閣が再現されており、その豪華・絢爛さに圧倒された。その後、安土城跡・摠見寺、八幡堀を見学。安土城跡では石段が急で、荷物を持たない上立つ二行



安土城跡・天守台に残る礎石の上立つ二行

教職員人事

平成二十五年七月一日付（ ）は旧職

大学

●配置換

学生支援部課長補佐

小瀬古 学

〔総務部課長補佐〕

総務部係長 上村加奈子

〔学校事務部学校事務室係長〕

総務部係長 石橋真田美

〔法人本部出版部係長〕

高校

●配置換

附属図書館事務部書記

池山 幸志

〔学生支援部書記〕

学校事務部学校事務室書記

清水真佐子

〔総務部事務嘱託〕

みえこどもの城・運営スタッフ 子どもと触れ合いながら社会人を一日体験

小学生が地元企業の仕事を体験する「キッズおしごと広場」(約1000名参加)が7月7日、松阪市の県立児童館「みえこどもの城」で開かれ、その運営スタッフとして本学の学生7名が参加した。



初めて参加した教育学科1年の土性聖奈さんは第三銀行に配属され、受付とクイズの説明係

を担当。言葉がわかりづらかったのか、泣き出して母親のところへ逃げて行ってしまう子がいるなど最初は戸惑うことも多かったが、目の前で模造紙幣を使って実演するなど工夫を凝らすうちに理解してくれる子どもが増え、手ごたえを感じたと話す。アナウンサー&カメラマン体験ができる松阪ケーブルテレビを手伝った国文学科3年の中島雅弘君はVTRの映像を流したり、「〇秒前…」と指示を出したり、テロップを入れたり、実際にプロが行っている業務に携わることができ、何気なく見ていたテレビの仕事に対し理解と尊敬の



子どもたちが、一生懸命取り組む様子を見るうちに「教師になりたい。子どもと関わる仕事がしたい」という気持ちが一層強くなったと土性さん（左下）

念が生まれたと興奮気味に語った。
子どもたちから学び、社会人体験もできた一日。得るものは大きかったようだ。

教育アシスタント 毎年100名超が参加。現場で子どもとともに成長

教員をめざす学生が多い本学では、毎年100名以上が＜教育ボランティア＞として学校現場で活躍している。昨年度は三重県教育委員会から依頼を受けた教育アシスタントに111名(53校)、伊勢市教育委員会から依頼された教育支援ボランティアに25名(12校)が参加。今年度も7月末現在で、計76名(前者61名・31校、

後者15名・8校)の応募があった。
具体的な活動内容は、授業や特別支援教育の補助のほか、児童生徒の心の支援や部活動、学校図書館活動、保育活動の支援など。体験した学生からは「子どもたちの抱えている問題や日々成長していく姿がみえた」「子どもとの接し方を考えることができた」「教師になりたいという気持ちが

強くなった」との声が聞かれ、教育者をめざす者としての責任と自覚が芽生えたようだ。一方、学校現場からも、「子どもたちの意欲が引き出された」「授業全体の質の向上につながった」「アシスタントの存在が活気を促した」「保護者からも続けてほしいとの要望があった」などの声が寄せられ評価は高い。本学としてもこれらの活動を教育実習に準ずる取り組みとして位置付け、現場を実体験できる貴重な機会として積極的に参加するよう指導している。

学生ボランティア学芸員 町の学芸員になろう！＜河崎＞の古文書解読に一役

伊勢河崎商人館(伊勢市河崎)が所蔵する史料の一部が初めて目録化され、今年5月に刊行された。これにまとめられた史料の整理、古文書解読、そして写真化を担当したのが、本学の大学院生・学部生による有志の団体＜学生ボランティア学芸員＞だ。

河崎は勢田川の水運を利用した問屋街で、参宮

者の食を支える物流拠点として栄え、江戸時代以来の貴重な史料が現存するが、未整理のものも少なくない。そこで本学の大学院生が発起人となり、平成14年に同館が開館した当初から史料調査を開始した。今回の目録は、学生たちが10年以上にわたり引き継いできた調査結果をまとめたもので、魚問屋の規制について書かれた文書など、「伊

勢の台所」と呼ばれた当時の問屋街の流過程を知ることができる。大学院1年の小林郁さんと峯望さんは、志ある人なら学年・学科を問わず、誰でも気軽に声をかけてほしいとメンバーを募る。



「目録の継続的な刊行をめざす」と語る学生ボランティア学芸員の小林さん(左)と峯さん。「商人館では遷宮に関する企画展示を開催中。見に来てください!」

～できることはきっとある～ ボランティアルームに行ってみよう!

本学2号館1階で活動している「ボランティアルーム」では26名の学生スタッフが中心となりボランティアコーディネートを行っています。ボランティアコーディネートとは、市民・団体からの多様なボランティア募集の

依頼を学生に情報発信し、地域と学生を「つなぐ。こと。ほかにも、社会福祉協議会の方たちと連携してボランティア企画を進めたり、ボランティアへの参加を促すイベントを開催したり活動範囲は日々広がっています。今、

これを読んでいるあなたにもきっとできることはあるはずです。参加したいと思ったら、まずはボランティアルームに行ってみよう!

＜開室時間＞
平日10時30分～16時20分



研究室 探訪

vol.
16

叶ゼミ

教育学部教育学科

「外遊び」の楽しさを 知っている教師を育てたい。

外遊びを通して今の子どもに大切なことを伝えていきたいという叶先生。だから先生のゼミでは、キャンプなどのアウトドア体験を重ねながら、学生自身が自然の中で遊ぶ楽しさを学んでいきます。

叶 俊文教授 (体育心理学)

今の子どもが身体を動かす機会といえば、学校の体育か、サッカーや野球といった「競技」が中心です。私たちが子どもの頃には、野山や川、海といった大自然の中で自由に遊び回る機会がたくさんありました。こうした中で子どもは体力を養い、自然の厳しさ、他人と協力する大切さを学んだものでした。私は、今の子どもも自然の中で自由に遊びながら、さまざまなことを学んでほしいと思っています。そのためには、まず子どもを指導する教師自身が自然を楽しむという経験をしなくてはなりません。だから私のゼミでは、キャンプなどのアウトドア体験を数多く取り入れています。また私は若い頃から1人用のテントを持って全国を歩き回ってきましたが、中でも三重県は海と山に囲まれた特別に美しい地域です。この素晴らしい自然を大切

にする心を一人でも多くの子どもに伝えるため、私の体力の続く限り、アウトドア体験を通した教育を続けていこうと思います。



学生コメント

教室の外で いろんな体験ができます。

川原田将太君 教育学科4年



叶先生のゼミでは、自分たちでキャンプや山登りをするだけではありません。たとえば地域の子を集めて「子どもキャンプ」というイベントを企画・運営したり、学内の畑で大根やジャガイモを育てて自分たちで茹で食べたりもします。教室を飛び出して、本当にいろんな活動をさせてもらえます。将来は、ここで学んだことを活かし、子どもたちに「外遊び」の楽しさを伝えられる教師になりたいと思っています。

勉強になった子どもイベント。

松本 聖君 教育学科4年



昨年の子供もキャンプには、多くの小学生が参加してくれました。川原で遊んだり、芝生で寝たり、みんな楽しんでくれたと思います。僕たちも、どうすれば子どもが安全に楽しめるか、危険はどう伝えればいいかなど、試行錯誤しながらイベントに参加できたことはとても勉強になりました。そして今年は、僕たちが3年生を教える立場になります。今年は、昨年よりももっと子どもに喜んでもらえるイベントにします。

地域でも活躍しています！

学生による地域貢献活動報告

まちの活性化に取り組みたい、地域を元気にしたい——そんな熱意を持つ学生たちが地域貢献活動を積極的に行っている。本学でも地域のさまざまな思いや願い、抱える課題について、学生と地域が双方につながりあい、協働して取り組み解決していく活動を支援している。

本企画では地域活動について「地域活動って何だろう」「どんな活動をしているのか」「興味はあるけど参加方法がわからない」という皆さんのために、この夏、学生が主体的に学び、考え、チャレンジしている活動を紹介する。

地域は皆さんの勇気ある「一歩」を待っている。

問合せは地域連携推進室へ！

皇學館大学地域社会研究会

商店街と学生がタッグ。地域の活性化を実践

現代日本社会学部の学生を中心に23名（男10名、女13名）のメンバーで活動する＜皇學館大学地域社会研究会＞はいせ市民活動センターの登録団体。毎週木曜の昼休みに現代日本社会学部研究室に集まってはイベントを企画したり、実際に参加して地域の活性化を実践している。

この夏は2つの商店街とタッグを組み夜店を盛り上げた。ひとつは、末尾に1・6・3・8が付く日と土曜に開かれる高柳商店街の夜店。伊勢市民には「イチロクサンパチ」の名で知られる、夏

の風物詩だ。同会はゲームコーナーを担当。学生代表を務めた現代日本社会学部3年の内田崇史君は、慣れない電動ノコギリやドリルに手こずりながら連日遅くまで作業したことが大変だったとしながらも、子どもたちが射的やスマートボールで楽しそうに遊ぶ顔を見て「本当に参加してよかった」と喜びを語った。

ふたつ目の取り組みである伊勢銀座新道商店街で7月20日に行われた夜祭には同学科3年の陶山貴史君が実行委員メンバーとして準備段階から企画・運営に参加。去年復活させた10年前の人気メニュー「新味知海鮮カレーうどん」で今年も勝負をかけた。陶山君は「海鮮のコストがとても高く、1杯250円で利益を出すのが大変だった。販売数も場所や天気などさまざまな要素で変わることがわかり、商売はとても難しいと思った」と、現実の厳しさが身に

染みた様子。苦労はありながらも、ふたりとも「商店街の人たちがどれだけ商店街のことを考え、愛しているかが伝わってきた」と話し、地域活性にける地元民の思いを肌で感じたようだ。

同会ではいろいろな活動に興味を持ち、率先して行動できる人材を募集中。子どもや地域の人々はもちろん、他大学の教授や学生とも交流する場が多く、人脈を広げるチャンスでもある。コミュニケーションを得意とする人、または磨きたい人は同会へ！



射的ゲーム機（地域社会研究会高柳チーム作成）



カレーうどんのつゆの出来栄をチェックする学生たち



「高柳の夜店」にて。三重テレビの取材を受ける内田崇史君



伊勢銀座新道商店街にて。夜祭準備でアーケードを清掃する学生

「学生」×「地域」カフェ

県と連携して地域の課題に取り組む

若い人のアイデアと行動力を地域の課題解決に活かしてほしいと、三重県が＜「学生」×「地域」カフェ＞を立ち上げた。これは、「県民力を高める絆づくり協創プロジェクト」のひとつで、過疎化や食の安全など地域が実際に抱える問題解決に向けて学生が企業や行政、NPO関係者などと意見交換や取り組みを行う場を設け、学生に地域活動に参画するきっかけを提供するものだ。これまでに本学から参加したのは有志17名と、筒井ゼ

ミのメンバー。学生は自分の関心の深い分野に名乗りを挙げ、多方面の人々と力を合わせ課題解決に取り組んでいる。受け身ではなく、主体的かつ能動的な姿勢が求められている今、こうした活動に積極的に参加する学生がますます増えることを期待したい。

学生参画プロジェクト名

- ① 「楽しい会議による、楽しいまちづくりの極意」を学ぶ
- ② 地域農産物（玉城ブドウ）を通じた活性化支援
- ③ 若者へ「食の安全・安心」を伝えるしくみづくり
- ④ 三重の中小企業魅力発掘のための映像制作
- ⑤ 若者の投票率向上のための選挙啓発方法の検討
- ⑥ 高齢化率70%の限界集落の活性化取組への協力
- ⑦ 「みえ防犯キャンパス」（防犯フォーラム）への参画
- ⑧ 「元気まつさか産業ビジリンピック」への協力
- ⑨ 福井県と三重県の若者との交流

皇高 NEWS

保護者対象進路説明会

百名以上が参加

五月十八日に三年生保護者対象の、六月一日に一・二年生保護者対象の進路説明会が実施され、それぞれ百名以上が参加する有意義な時間となった。



ほぼ満席の状態になった説明会会場

五月十八日に三年生保護者対象の、六月一日に一・二年生保護者対象の進路説明会が実施され、それぞれ百名以上が参加する有意義な時間となった。

両説明会とも、第一部では昨年度の進路状況の報告や入試の解説、実際についての説明などが行われた。第二部では、三年生対象の会では厚生労働省指定キャリア・コンサ

プラシというテーマで講演。大学入試にかかる費用や奨学金の借り方などを話した。

寄付者芳名

皇學館高等学校創立五十周年・皇學館中学校創立三十五周年記念事業

同周年記念事業は募財活動の中心を「生徒の教育活動支援」に置いており、六月三十日現在の募金状況は次の通りです。皆様のご協力に感謝申し上げますとともに、今後ともご賛同をよろしくお願い致します。

愛知県

三重県

下村 行宏様
藤田 明様
寺田 多摩己様
倉田 憲子様
河崎 恵子様

本法人関係

六万円(二万円増額)
岩城 美紗様

皇學館高等学校創立五十周年・皇學館中学校創立三十五周年記念事業寄付金進捗状況			
平成25年6月30日現在			
区分	申込件数	申込金額(円)	納入金額(円)
宗教界	3	450,000	450,000
企業	42	4,240,000	4,200,000
一般(旧教職員・諸志家等)	18	575,000	575,000
同窓会会員	204	7,820,000	7,820,000
後援会賛助会員	75	1,235,000	1,235,000
本法人関係	126	3,745,000	3,745,000
合計	468	18,065,000	18,025,000

平成二十五年度表彰者一覧(抜粋)

四月から六月にかけ開かれた春季大会や三重県高校総体において活躍した各クラブ。以下にとくに優秀な成績を収め東海大会や全国大会への出場を決めた個人・団体を紹介する。

●全国大会出場決定
●東海大会出場決定

弓道・男子

●団体：東海総体2位・県総体3位
●酒徳明：東海総体県予選優勝
●永島明：東海総体県予選2位
●日下部和博：県総体優勝

バドミントン・女子

●団体：県総体優勝・東海総体3位
●(複)中西理緒・川添麻衣子：全国・東海総体県予選優勝
●(複)稲葉美奈・中川祐希：全国・東海総体県予選2位
●(単)川添麻衣子：全国・東海総体県予選優勝

バドミントン・男子

●団体：県総体2位
●(複)濱井竜輔・竹内慎哉：全国・東海総体県予選2位

卓球・女子

●団体：県総体2位
●八木汐里：全国・東海総体県予選3位

●山口來美：全国・東海総体県予選7位
●(ダブルス)八木汐里・山口來美：県総体2位

剣道・男子

●団体：県総体3位
●尾上武聡：県総体5位
●岩崎公則：県総体5位

剣道・女子

●団体：県総体3位
●船見菜々子：県総体2位
●川村ゆり：県総体5位
●バレーボール・男子
●県総体3位

柔道・女子

●団体：県総体3位

囲碁・男子個人

●吉居幸祐：三重県大会優勝

陸上

●男子棒高跳／城利貴：県高校陸上競技選手権大会1位・県総体3位／小林尚樹：県総体6位
●女子百メートル／堀江早貴：県総体2位
●女子四×百メートル／佐之井優希・板倉菜也・中村香月・堀江早貴：県総体4位
●女子二百メートル／堀江早貴：県総体4位
●女子やり投／山路紫穂：県総体5位
●女子四×百メートル／佐之井優希・板倉菜也・中村香月・角谷風歌：県総体6位

学校見学会のご案内

日時：
9月21日(土)
10月19日(土)
午前10時30分より
(12時30分終了予定)
内容：
学校説明、吹奏楽部による歓迎セレモニー、校舎見学
持ち物：
筆記用具、スリッパ
◎参加者には学生食堂での昼食、または軽食を準備しています。
◎保護者の参加も可能です。
◎学校見学会終了後、クラブ活動も見学できます。
※上記日程以外の見学も可能です。お気軽にお問い合わせください。(入試広報部 Tel 0596-22-0205)

皇中 NEWS

皇大生二名が教育実習

六月三日から三週間にわたり教育実習が実施された。今年度は皇學館大学教育学部から社会一名、英語一名の計二名が実習に訪れた。

一年生が志摩で宿泊研修

志摩市ともやま公園において、六月二十八日から一泊二日の日程で一年生が宿泊研修を実施した。一日目は入館式、学習会、公園散策、シーカヤック、カレイライス作り、キャンプファイヤーなど充実した一日を過ごし、二日目はスポーツレクリエーション、退館式などを行った。活動を通して仲間や集団行動の大切さをしっかり学んだようだ。

皇學館生としての自覚を持つ

一年A組 藤本拓巳

宿泊研修はいろんなことがあっても楽しかったです。そして、友達とも、もっと仲良くなれたし、協力することの大切さや皇學館の生徒である自覚が持てました。この二日間はとても良い思い出になりました。

△協力Vの大事さ学ぶ

一年A組 中川稀羅

研修をやって、全てにおいて協力しないといけないものがプログラムにありました。私は全て協力ができて良かった。最後に燃え上がったので、最高の宿泊研修になったと思います。この二日間であり話したことのない仲間とも仲良くなれてとても良い思い出になりました。みんなが六年間一

られた。最終日には各学年からのサプライズの終礼が計画されており、合唱やメッセージなどを贈られると感動で涙を流す場面もあった。生徒にとっても素敵な思い出となった。



実習期間中にすっかり打ち解け、仲良くなった実習生と生徒たち

緒なので仲良くしていきたいです。

普段できないことを体験

一年B組 岡野匠

宿泊研修では普段できないようなことを体験できたのでとても嬉しかったです。とくにシーカヤックなどはめったにできないので良い体験になりました。夕飯作りもみんな協力して作ったカレーがすごくおいしかったです。また、キャンプファイヤーは初めての体験だったので楽しかったです。最後には燃え上がったので、最高の宿泊研修になったと思います。二日目は勉強会やスポーツレクリエーションなどいろいろなことが

多くの経験を日常に活かす

一年B組 大森春奈

いろんな体験ができてみんなとの団結力・行動力も上がって最高でした。この多くの経験をこれからの日常生活に活かしていきたいです。これからいっばいある行事では団結力・協力・行動力・思考力が必要とされます。その時に今回の宿泊研修で得た力を発揮して最高の行事にしていきたいです。

入試日程のお知らせ

●入試日

A日程 平成26年1月12日(日) 午前9時～
B日程 平成26年2月8日(土) 午前9時～

●入試科目

A日程 〈一般〉国語・算数・理科・社会
〈専願〉国語・算数・面接
B日程 国語・算数

●出願期間

A日程 平成25年12月16日(月)～平成26年1月8日(水)
午前9時～午後3時(土曜日は正午まで)
※12月22日(日)、23日(祝)、28日(土)～1月5日(日)を除く
B日程 平成26年1月27日(月)～2月6日(木)
午前9時～午後3時(土曜日は正午まで)
※2月2日(日)を除く

学校説明会のご案内

日時：
9月28日(土)
午前9時30分～
当日は学校説明や入試案内のほか、授業見学などもできます。ぜひご参加ください。

皇中祭

日時：
10月26日(土)
10月27日(日)
入学を希望する小学生と保護者に公開いたします。当日は合唱コンクールやクラス展示などが行われます。

問合せ
皇學館中学校 0596-23-1398



志摩の自然の中、パドル操作に悪戦苦闘しながら懸命に漕ぐ生徒たち



材料を切ったり火をつけたり、みんなで作ったカレーはおいしさひとしお！

平成 24 年度 収支決算報告

学校法人皇學館の平成 24 年度決算は、平成 25 年 5 月 30 日（木）開催の理事会で承認されましたので、ここにその内容を公表します。

なお、公式ホームページ（http://www.kogakkan-u.ac.jp）の大学概要の IR 情報の事業報告平成 24 年度にて、教育研究機関・事務組織・入学生数・在籍者数・卒業生数・進路（就職）状況及び法人の事業実績、財務の概要説明を公開しておりますので、併せてご覧ください。

平成 24 年度収支決算書は、以下のとおりです。

1 資金収支計算書

この計算書は、企業会計におけるキャッシュフロー計算書に近いもので、当該会計年度 の教育研究活動及びその活動に付随する全ての資金の動きと内容を明らかにすることを目的としています。

資金収支計算書（法人全体）

平成24年4月1日から平成25年3月31日（単位 千円）

科目	予算	決算	差異
----	----	----	----

●収入の部

学生生徒等納付金収入	3,701,025	3,685,098	15,926
手数料収入	75,464	80,904	△5,440
寄付金収入	71,361	77,749	△6,388
補助金収入	729,176	728,801	374
資産運用収入	48,258	47,974	283
資産売却収入	0	150	△150
事業収入	24,700	21,806	2,893
雑収入	180,087	205,901	△25,814
前受金収入	631,941	714,661	△82,720
その他の収入	409,613	452,298	△42,684
資金収入調整勘定	△864,255	△913,826	49,570
当年度資金収入合計①	5,007,370	5,101,520	△94,150
前年度繰越支払資金	1,585,855	1,585,855	
収入の部合計	6,593,225	6,687,375	△94,150

●支出の部

人件費支出	2,838,316	2,809,437	28,878
教育研究経費支出	894,608	890,324	4,283
管理経費支出	472,036	472,111	△75
借入金等利息支出	6,257	6,256	1
借入金等返済支出	43,750	43,750	0
施設関係支出	150,064	142,670	7,393
設備関係支出	153,627	123,242	30,384
資産運用支出	355,652	363,854	△8,202
その他の支出	248,748	251,896	△3,148
〔予備費〕	(0) 30,000		30,000
資金支出調整勘定	△134,754	△ 105,012	△29,741
当年度資金支出合計②	5,058,304	4,998,528	59,776
次年度繰越支払資金	1,534,921	1,688,844	△153,922
支出の部合計	6,593,225	6,687,375	△94,150

当年度資金収支差額①-②	△50,934	102,992	△153,926
--------------	---------	---------	----------

2 消費収支計算書

この計算書は、企業会計における損益計算書にあたるもので、帰属収入（負債とならない収入）から基本金組入額（施設や設備などの取得にあてる額）を控除した消費収入と消費支出を比較して均衡状況を明らかにすることを目的としています。

消費収支計算書（法人全体）

平成24年4月1日から平成25年3月31日（単位 千円）

科目	予算	決算	差異
----	----	----	----

●消費収入の部

学生生徒等納付金	3,701,025	3,685,098	15,926
手数料	75,464	80,904	△ 5,440
寄付金	78,861	96,305	△ 17,444
補助金	729,176	728,801	374
資産運用収入	48,258	47,974	283
事業収入	24,700	19,892	4,807
雑収入	192,511	218,326	△ 25,815
帰属収入合計①	4,849,995	4,877,302	△ 27,307
基本金組入額合計	△ 229,846	△ 229,702	△ 143
消費収入の部合計②	4,620,149	4,647,600	△ 27,451

●消費支出の部

人件費	2,792,449	2,763,573	28,875
教育研究経費	1,332,630	1,346,251	△ 13,621
管理経費	509,198	504,924	4,273
借入金等利息	6,257	6,256	1
資産処分差額	11,063	10,938	124
〔予備費〕	(0) 30,000		30,000
消費支出の部合計③	4,681,597	4,631,944	49,652

●収支差額の部

当年度帰属収支差額①-③	168,398	245,358	
当年度消費収入超過額②-③	0	15,655	
当年度消費支出超過額	61,448	0	
前年度繰越消費支出超過額	3,987,146	3,987,146	
翌年度繰越消費支出超過額	4,048,594	3,971,491	

3 貸借対照表

この計算書は、決算日における資産及び負債、基本金、消費収支差額の内容及び在り高を明示し、学校法人の財政状態を明らかにすることを目的としています。

●貸借対照表

平成25年3月31日（単位 千円）

科目	本年度末	前年度末	増減
----	------	------	----

●資産の部

固定資産	15,090,837	15,270,950	△180,112
有形固定資産	13,262,004	13,477,349	△215,344
土地	551,349	551,349	0
建物	9,643,239	9,931,099	△287,860
構築物	714,258	656,643	57,614
教育研究用機器備品	501,542	514,050	△12,508
その他の機器備品	37,408	44,120	△6,712
図書	1,806,451	1,770,648	35,802
車輛	7,756	9,436	△1,680
その他の固定資産	1,828,832	1,793,600	35,232
電話加入権	3,959	3,959	0
施設利用権	0	16	△16
有価証券	9,596	9,596	0
敷金	5,620	5,620	0
差入保証金	4,960	4,960	0
預託金	10,000	10,000	0
長期貸付金	6,635	9,047	△2,412
退職金			
引当特定資産	1,233,365	1,233,365	0
施設維持			
引当特定資産	206,527	50,000	156,527
学生寮施設維持			
引当特定預金	148,129	140,100	8,029
百三十周年記念			
事業等引当特定資産	0	234,894	△234,894
学園財政調整			
引当特定預金	100,000	0	100,000
第3号基本金引当資産	100,040	92,040	8,000
流動資産	2,841,563	2,678,068	163,494
現金預金	1,688,844	1,585,855	102,988
補助活動支払資金	295,033	294,615	417
研修旅行費等			
預り資産	126,776	120,639	6,136
未収入金	159,650	113,647	46,003
奨学金引当特定資産	11,471	11,484	△13
販売用品	11,603	13,517	△1,914
短期貸付金	2,647	1,976	671
篠田学術振興基金			
引当特定資産	65,638	64,272	1,366
津田学術振興基金			
引当特定資産	323,898	322,016	1,881
教学振興基金			
引当特定資産	150,000	150,000	0
立替金	6,000	6	5,993
前払金	0	35	△35
資産の部合計	17,932,400	17,949,018	△16,617

●負債の部

固定負債	1,393,702	1,502,305	△108,603
長期借入金	218,750	262,500	△43,750
退職給与引当金	1,103,588	1,161,878	△58,289
長期未払金	71,363	77,927	△6,564
流動負債	1,099,515	1,252,887	△153,371
短期借入金	43,750	43,750	0
未払金	111,541	244,596	△133,054
前受金	714,661	754,175	△39,514
預り金	229,562	210,365	19,197
負債の部合計	2,493,218	2,755,193	△261,975

●基本金の部

第1号基本金	18,916,634	18,694,932	221,702
第3号基本金	100,040	92,040	8,000
第4号基本金	394,000	394,000	0
基本金の部合計	19,410,674	19,180,972	229,702

●消費収支差額の部

翌年度繰越消費支出超過額	3,971,491	3,987,146	△15,655
消費収支差額の部合計	△3,971,491	△3,987,146	15,655

負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部合計	17,932,400	17,949,018	△16,617
------------------------	------------	------------	---------

※貸借対照表の注記は省略しています。

※記載金額は千円未満を切り捨てて表示しています。

専の会より横断幕贈呈



幕の横の長さは上から順に3・5・7メートル



清水潔学長に幕を手渡す山中会長（左）

六月十七日、皇學館大学専の会（保護者の会）より、大学応援のための横断幕三枚（大・中・小の三種）が贈呈された。い

れも本学のイメージカラーである紫を基調にしており、もっとも大きい横断幕は幅七メートルに及ぶ。贈呈式では、専の会の山中幹也会長が「頑張っている学生たちを専の会挙げて応援してい

い」と熱いメッセージを清水潔学長に伝えた。

横断幕はすでにいくつ

かの大会で使われ応援の実を挙げている。駅伝競走部の日比勝俊監督は、「保護者の会がこのよう

な立派な横断幕を作ってくれて本当にありがたい。選手たちの励みになります」と専の会への感謝の気持ちを語った。

専の会総会

五月十九日、本学記念

専の会役員会

五月十八日、午後三時

より伊勢シティホテルにおいて、専の会会長並びに清水潔学長の挨拶により役員会が開催され、役員五十名、本学教職員十七名で総会に諮るべき議事が審議された。

講堂において専の会総会が開催された。文学部一

チャレンジプロジェクト公開プレゼン

活動通じて伊勢をアピール

学生が主体となって学校や地域を活性化させてほしいと、学生委員会が中心となって進めている

「チャレンジプロジェクト」（学内プロジェクト）（学内プロジェクト）から名称変更）。今年度は一件の応募があり、六月十三日に公開プレゼンが行われた。

プレゼンを行ったのは現代日本社会学科三年の前村実希さんを代表とする「宇治☆山田プロジェクト」。



度からの継続事業で、今年の十一月に東

京の明治学院大学で開催される「全国まちづくりカレッジ」において伊勢の商品を販売するなど、地元と協力しながら御選

宮が行われる伊勢の魅力

を発信し、地域の活性化に取り組みたいと熱く訴えた。

質疑応答では鋭い質問に額から汗を流しつつ懸命に答える場面も。計画に少し甘さが見られたもの、交流と学びの機会を伊勢の魅力発信のチャンスととらえ積極的に行動する姿勢には高い評価が集まった。先生方の意見やアドバイスを参考にさらに内容を充実させ、プロジェクトを成功させてくれることが期待される。

寮祭が今年も盛大に開かれた。午前中は寮生によって撮影・編集されたフィルムを鑑賞し、午後からは男女混合の班に分かれて競技やダンスをしたりと楽しい時間を過ごした。夜には毎年恒例の火文字も成功した。

寮祭を開催するにあたって、支えてくださった方には感謝している。また楽しい時間を過ごすことができて、寮生でよかったと心から思った。

寮祭実行委員長
山根 あさひ
（現代日本社会学科二年）

イベント情報 (9～10月)

9月	7 土 月例文化講座 431 教室 経済自由主義・マルクス主義・経済ナショナリズム ～その現代日本にとっての意味～ 山中優 (現代日本社会学部教授)
	7 土 史料編纂所 公開講座 234 教室 Ⅰ 藤原不比等の足跡 - 貴族の家のはじまり - 遠藤慶太 (研究開発推進センター准教授) Ⅱ 多賀城碑を読む - 仲麻呂政権下の一史料 - 荊木美行 (研究開発推進センター教授・同副センター長) Ⅲ 藤原仲麻呂とその政治Ⅱ 木本好信 (甲子園短期大学特任教授・博士 (学術))
	7 土 皇學館大学 ふるさと講座 名張市武道交流館いそぎ・多目的ホール 初瀬街道の旅人 - 松阪から名張へ - 高倉一紀 (文学部教授)
	14 土 皇學館大学共催講座 近鉄文化サロン阿倍野 『古事記』を読む (中巻)「景行天皇 (下)」 白山芳太郎 (文学部教授)
10月	14 土 皇學館大学共催講座 近鉄文化サロン阿倍野 『伊勢の遷宮と心の蘇り』 - 建築ご神宝と遷宮諸祭 - 『式年遷宮の歴史』 白山芳太郎 (文学部教授)
	21 土 皇學館大学共催講座 近鉄文化サロン阿倍野 特別公開講座 明治維新の源流 - 高山彦九郎の生涯 - 松本丘 (文学部教授)
	28 土 古文書講座 211 教室 『近世文書を読む!』 上野秀治 (文学部教授)
	28 土 皇學館大学共催講座 近鉄文化サロン阿倍野 『神道と仏教』 - 神社仏閣に見る神仏習合と神仏分離 - 『出雲大社における神仏習合と神仏分離』 河野訓 (文学部教授)
	5 土 月例文化講座 431 教室 社会臨床とまちづくり 筒井琢磨 (現代日本社会学部教授)
	12 土 皇學館大学共催講座 近鉄文化サロン阿倍野 『古事記』を読む (中巻)「成務～仲哀天皇 (上)」 白山芳太郎 (文学部教授)
	12 土 皇學館大学共催講座 近鉄文化サロン阿倍野 伊勢の遷宮を考える - 1日の祭り1年の祭り20年1度の祭り - 『神嘗祭と式年遷宮との関係』 白山芳太郎 (文学部教授)
	19 土 古文書講座 211 教室 『近世文書を読む!』 上野秀治 (文学部教授)
	19 土 皇學館大学共催講座 近鉄文化サロン阿倍野 特別公開講座 神道の作法と伝統 - 拝と拍手 - 木村徳宏 (文学部助教)
	26 土 神道博物館教養講座 佐川記念神道博物館講義室 伊勢の神宮を語るⅡ - 日本文化の源流を考える - 『旅にみるお伊勢参り』 岡田登 (文学部教授)
	26 土 皇學館大学共催講座 近鉄文化サロン阿倍野 『神道と仏教』 - 神社仏閣に見る神仏習合と神仏分離 - 『醍醐寺における神仏習合と神仏分離』 河野訓 (文学部教授)
	27 日 431 教室 第14回高校生英語スピーチコンテスト

- 各講座の詳細につきましては、本学ホームページにてご確認ください。
●共催講座 (近鉄文化サロン阿倍野) のみ、**有料**です。お問い合わせは
近鉄文化サロン阿倍野 (0590120-106718) へお願い致します。
●神道博物館教養講座は、事前の申込みが必要になります (先着順)。
お問い合わせは (0596-22-6471) へお願い致します。
●史料編纂所公開講座・古文書講座は、参加費無料・申込不要 (当日お
越しください)。お問い合わせは (0596-22-6462) へお願い致します。
●その他、お問い合わせは、皇學館大学企画部 (0596-22-6496) へお
願い致します。

編集後記

お白石持行事に日本全国の
教育機関で唯一、本学奉
団が参加しました。学生た
ちにとって二十一年に一度の
行事を在学中に体験できた
ことは大変貴重で幸運なこ
とです。次回二十年後の式
年遷宮までには彼らも結婚
し、家庭を持ち、子どもたち
を連れて参加してくれるの
ではと勝手な想像も膨らみ
ます。また今回思いがけず
多数のメディアの取材を受
け、我々が気づいていない
あるいは当たり前と感じて
いる本学や伊勢の魅力をも
確認し、全国に発信するこ
とができました。これから
も皇學館を積極的にPRし
ていきたいと思ひます。
(企画部)

安否確認メールを試用
第3回避難訓練

7月4日、Ⅳ講時終了後、学生・教職員を対象に3回
目となる避難訓練が行われた。地震が発生した想定でア
ナウンスが流れると、学生や教職員は一斉に避難場所
である芝生広場へと避難した。今回は学生や教職員にメー
ルにて罹災、安否状況を問う「安否確認システム」の試
験運用も同時に実施。前回までは、避難先で学生が所定
の用紙に記入する事で安否状況を確認していたが、今回
のシステム導入により、学外の学生も含め、より短時間
で正確な状況を把握することが可能となった。

今回2号館から避難したという学生は「一度に多くの
人が殺到する出入り口付近はとくに動きがとれず、慣れ
た経路でも意外と時間がかかった」、別の学生は「普段何
とも思わないイスやゴミ箱、傘立てなども避難の妨げとなり、
危険だとわかった」と感想を話した。

ほ日頃から防災意識を持って
いると訴える清水潔学長

館友教員懇談会を開催
各地から多数が参加



充実した施設に感心する参加者

毎年、全国十会場で行っている館友教員懇
談会。四年に一度は本学を会場に開催してい
る。今年度は七月二十七日に実施され、全国
から多くの館友教員が参加した。

館友教員懇談会は全国
の高校、中学校、小学校、
幼稚園、保育所等で教職
に就いている館友教員に
本学の現状などを理解し
てもらい、母館と館友教
員間の連携や館友教員同
士の交流を深めてもらう
ことを目的としている。

四年に一度の本学での開
催年にあたる今年は館友

の教員と本学の教職員が
伊勢に集った。

七月二十七日、十四時
三十分から始まった説明
会では清水潔学長の挨拶
の後、大学の現況や新カ
リキュラム等の教育内
容、教職支援体制及び実
績、附属中学校・高校の
状況について報告がなさ
れた。参加者は配布され
た資料に目を通しなが
ら話を聞き、本学
の現状について理解
を深めていた。

説明会終了後は学
内見学ツアーを実
施。職員による案内
のもと、今年三月に
完成した学生の主体
的な学修及び交流の
空間「百船」や新教
育研究棟、総合体育
館、記念館などを回
った。出席者は在学
当時の学園生活を思
い出したのか懐かし
げに眺めつつ、最新
の施設・設備に驚い
ていた。

皇學館DAYを開催

大・高・中の合同学校説明会

その後は倉陵会館に移
動し、懇談会が開かれた。
会場ではあちらこちらで
恩師、同窓生との久しぶ
りの再会を喜び談笑する
光景が見られ、参加者は
有意義な時間を持つこと
ができた。

広報の効率化と、皇學
館ブランド強化のため、
昨年、初めて開催された
大学・高校・中学校によ
る合同学校説明会「皇學
館DAY」。その第二回
が六月二十二日、津市の
三重県総合文化センター
で開催された。

当日は、中村貴史学校
長の挨拶によりスター
ト。説明会に先立って、
高校の吹奏楽部による演
奏会が開かれた。数多く
の受賞歴を誇る同部だけ
に、そのパフォーマンス
は圧巻。往年のロックナ
ンバーをオーケストラア
レンジしたメドレーに始
まり、東日本大震災復興
支援ソング「花は咲く」
の合唱、人気アイドルグ



カリキュラムや進路について担当
者に質問、相談する来場者たち



迫力ある吹奏楽部のパフォーマンス

な、当日行ったアン
ケートでは「私学に関し
て情報交換できる場がほ
しい」「本学の特色ある
教育内容を今後とも維持
してほしい」「教員採用
試験の合格率が高くなっ
てきており誇らしい」と

その後、雰囲気は一転
して各担当による学校説
明会を開催。中学校にお
ける教育改革プランや、
高校のボキャブラリービ
ルディングなどユニーク
な学習法への取り組み、
大学での教員養成実績な
どについて詳しい説明が
行われ、七十名近い来場

者は真剣な表情で耳を傾
けた。その後は三つのブ
ースに分かれ、来場者は
それぞれの進路状況や
通学状況、入試情報など
を担当者に質問。ブース
には順序を待つ列ができ
た。

来年もさまざまな趣向
を凝らし、より多くの方
にご来場いただける説明
会にしていく予定だ。

佐川記念神道博物館主催の「夏休み親子教室」
親子で藍染めに挑戦

最初に全員
で藍の葉をミ
キサーにかけ
て搾り、薬品
を入れて染料
が完成。次に
ビー玉や洗濯
ばさみなどを
使って木綿を
自由に折りた
たみ、染料に
浸して水洗い
するとわずか十五分で藍
染め木綿が完成した。折
りたたむ間はどんな模様
になるかわからないた
め、参加者は予想以上の
美しい出来栄に満足し
た様子。

初めて参加した小学四
年の女子児童は「このハ
ンカチを夏休みの自由研
究にします」と満悦
同様に市内から参加した
母親は「さっそくスカ
ーフを使ってみようと思

数字でみる皇學館 これは何の数字？

4,846名

皇學館大学で生まれた「先生」の数

昭和37年に新制大学として再興され、文学
部を設置して以来、教育者の育成に力を入れて
きました。平成20年には教育学部を設置。日
本文化を中心とする広い教養と、総合的な教育
理論の指導を行ってきました。今日までに本学
を卒業した教育者は4846名を数え、全国のさ
まざまな学校で、次代の日本を担う子どもたち
の教育に全力で取り組んでいます。



ゆうづる会の皆さんも、お手製の藍染めTシャ
ツを着て指導

ます。来年も必ず参加し
ます」と笑顔で語った。
最後にイベントを主催
した佐川記念神道博物館
館長の岡野友彦教授は
「私も藍染めの魅力には
まりそうです」と挨拶し、
子どもも大人も笑顔にな
って本年の親子教室が幕
を閉じた。



完成したハンカチを誇らし
げに見せる子どもたち